

大雪等に伴う農林水産業用施設及び農作物等の管理対策

平成29年 1月12日

新潟県農林水産部

新潟地方気象台が1月12日5時56分に発表した「大雪と高波に関する新潟県気象情報第2号」によると、県内では1月13日にかけて大雪となる予想です。

また、15日にかけて強い寒気が流れ込み、冬型の気圧配置はさらに強まる見込みです。

ついでには、除雪時等の事故防止を徹底するとともに、農林水産業用施設や農作物等の管理に十分注意して被害防止に努めてください。

なお、冬季の間は、冬型の気圧配置が急速に強まり、低温や降雪の被害を受けやすいことから、今後も気象情報に留意するとともに以下を参考に栽培管理等にあたってください。

1 除雪作業時の事故防止

- (1) 作業は必ず複数の人員で行い、場所・時間等も周囲に連絡しておく。また、作業中は、施設等からの落雪に十分注意するとともに、危険な施設等には安易に近づかない。
- (2) 作業の前後には、除雪機の点検・整備を行い、事故防止に努める。また、除雪作業時にロータリーが停止した場合は、必ずエンジンを止めてから点検・修理する。

2 農林業用施設

- (1) 農林業施設、建物については、屋根の積雪やその周囲の点検を十分に行い、倒壊等が生じないように除雪に努める。
- (2) 被害が発生した場合は、十分な安全を確保した上で、速やかに修繕する。
※ なだれ等による施設被害の恐れがある場合や、被害が発生した場合には、速やかに市町村または県機関に連絡してください。

3 園芸全般

【事前対策】

- (1) 施設の点検と除雪
 - ア ハウス等の施設とその周囲の点検を行うとともに、施設周囲の除雪に努める。
 - イ 必要により、施設内に支柱を設ける等の補強を行う。
 - ウ 加温設備のある施設では、可能な範囲で設定温度を高め、内部カーテンを開放するなどにより、屋根部分の融雪及び雪の滑落を促進する。また、排気管（煙突）等の保守に努め、施設内部への燃焼ガス漏れに注意する。
 - エ 無加温施設の場合は、雪の堆積量が多くなるようこまめに見回り、除雪に努める。

(2) 園芸の栽培・育苗管理

- ア 定植期を迎えている作物は、異常な低温など寒波時の定植を避ける。
- イ 気温及び地温が低く生育阻害が懸念される場合は、トンネル被覆等による保温管理や、生育状況に即した適切な肥培管理を行う。
- ウ 日照不足の場合は軟弱徒長となるため、ハウス周囲の除雪や内部カーテンの開閉など、可能な限り採光し、施設内環境を改善する。
- エ 栽培施設（果菜類の育苗施設や花き類等）では、密閉保温により病害等の発生が懸念されるので、換気を行うとともに防除に努める。

【事後対策】

- (1) 施設、支柱・支線、誘引結束等を再点検し、破損箇所は速やかに補修する。特に、作物を栽培中の施設で、被覆資材の被害を受けたところは、補修までの間の低温障害を防止するため、トンネル等で作物を被覆し、保温に努める。
- (2) 加温が必要なハウスで停電した場合は、ハウス内の温度低下を防ぐため、石油ストーブ等で保温するとともに、可能な限り採光し、施設内環境の改善に努める。
停電回復後は、各種設備が確実に作動しているか確認する。
- (3) 除覆した骨組だけのハウスも、ハウスの肩のパイプ以上に積雪した場合は、損傷する恐れが大きいので除雪する。その際、作業は複数の人員で行う。
- (4) 施設の破損等により、葉ズレ、枝ズレ、蕾のスレ等で障害が発生した場合は、収穫物の選果・選別に注意する。また、倒伏した作物で回復が見込まれるものは、速やかに立て起こす。

4 野菜

【事前対策】

- (1) 葉物野菜で異常低温が予想される場合は、凍害等を防止するため、不織布等のべたがけを行う。
- (2) いちごで低温や日照不足が続く場合は、着色不良や果実軟化が懸念されるため、午前中のハウス温度を12～15℃に設定する。また、天候を見て、内部カーテンを開放し、日射量の確保に努めるとともに、換気により、施設内温度の上昇を防ぐ。
- (3) 育苗中のトマトは、ハウス内温度の低下で花芽形成が不良になりやすく、下段花房が奇形花となる恐れがあるので、可能な限り保温する。

【事後対策】

- (1) そらまめでトンネル資材が破損した場合は、速やかに補修する。
- (2) いちごで果実に損傷が見られる場合は、株の負担を軽減するため早期に摘果し、損傷の激しい葉は摘葉する。

5 果樹

【事前対策】

- (1) 冠雪や暴風による倒木や枝折れを防ぐため、整枝せん定を早め実施するとともに、補強用の支柱を入れ、枝をロープなどでしっかり結束・固定しておく。

- (2) 湿った雪による冠雪が多いと予想される場合は、枝や果樹棚等に付着した雪の払い落としを随時行う。
- (3) ぶどう、なしの棚栽培で、大雪により除雪が不可能で棚の崩壊が懸念される場合は、非常手段として周囲線を掘り出し、周囲柱の下の積雪を踏み込み、主線や小張線を外す。

【事後対策】

- (1) 枝が折損した場合は、切り直して保護剤を塗布する。
- (2) 主枝分岐部等の太枝が裂開した場合は、被害程度に応じて切除するかボルト等で接合し、保護剤を塗布する。

6 花 き

【事前対策】

チューリップ切り花等で栽培施設の換気不足が懸念される場合は、小型循環扇により空気を動かすとともに、かん水量を減らすなど施設内湿度の上昇を防ぐ。

【事後対策】

- (1) 施設の被災や停電があった場合は、速やかに暖房機のを点検及び、電照・補光関連装備（電球、タイマー等）の作動確認を行う。
- (2) 被災して障害程度の激しい株は、病害発生源となりやすいので、早めに処分する。

7 畜 産

【事前対策】

- (1) ハウス等の簡易畜舎は、周囲の除雪に努め、支柱を設ける等の補強を行う。
- (2) すき間風を防ぐため畜舎の点検を行い、子畜等の保温と適切な換気に努める。
- (3) 停電に備え、自家発電機の準備・始動点検を行う。
- (4) 飲料水の凍結防止対策を行う。

【事後対策】

停電があった場合は、速やかに関連機器の作動点検を行う。

8 き の こ

【事前対策】

- (1) 強風が予想される場合は、ハウスを保護するため、支柱・支線等の点検・補強を行うとともに、換気扇や暖房機の排気管（煙突）等が強風で飛ばされないよう、事前に補強する。
- (2) ハウス栽培で気温の低下が予想される場合は、生育障害を防ぐため、適切な温度・湿度管理に努める。
- (3) ハウスへの着雪が予想される場合は、排気管（煙突）等の保守に努め、施設内部への燃焼ガス漏れに注意するとともに、滑落した雪による施設への側圧を軽減するため、散水ホース等を使用し消雪を促進する。
- (4) 停電に備え、自家発電機の準備・点検を行う。

【事後対策】

- (1) 施設に被害があった場合は、速やかに復旧し、きのこの生育環境を確保する。
- (2) 降雪量が多い場合は、雪による施設への側圧及び沈降圧が作用しないよう可能な限りハウス周囲の除雪に努める。
- (3) 停電があった場合は、復旧後速やかに関連機器の作業点検を行う。

9 水 産

【事前対策】

- (1) 漁具・漁船保管施設、錦鯉養殖越冬施設、さけますふ化放流施設、ニジマス養殖施設、建物については、屋根の積雪やその周囲の点検を十分に行い、倒壊等が生じないように除雪及び消雪に努める。
- (2) 停電に備えて、自家発電機の準備・点検を行う。特に養殖施設、ふ化放流施設については停電時の保温対策、給水対策に努め、へい死事故に十分注意する。

【事後対策】

停電が復旧した後は、速やかに関連機器の作動点検を行う。